物産雜説

鳥類

二

A 00
5764

鳥類

東京大学総合図書館

貳
No.3

ワシ　鷲

壬申秋北海道ヨリ當歳ノモノヲ致ス頭ヨリ尾ノ許近一尺八寸許嘴黒ク末勾リテ鷹ノ嘴ニ異ナラス眼蛋黄色總躰ノ羽ノ色鳶ノ如クニシテ白色ノ斑點アル羽ヲ雜ユ翅ニ白色黒斑ノ羽アリ足黄色爪黒クシテ最鋭シ生魚ヲ以テ食餌トス

A00
5764
東京帝國大學圖書
B 45224
男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男男旧藏書
昭和七年
東京大学総合図書館

鷲ノ話

伊丹重賢君曰余カ親戚ノ者此ノ頃手島郡下ニ於テ大ナル鷲ヲ散彈ヲ以テ打チタルニ杉樹ニ止ルヲ又行テ一発ナスニ枯枝ニ止マリシ処促シテ叉張ニナシハ枯枝ニ鷲ノ重量ヲ折シテ落ケタレハ捕ヘテ得タリ其剥製ナリ甚大サ両翼ヲ攄ケ九尺七寸アリ又此頃新聞ニ出シ杤木縣下ニ於テ大ナル鷲ヲ一疋捕ヘタ同様ノ大サナル由鉄ノ件ハ何地ヨリカ雌雄ヲ失ヒタルト云ヘリ

中島錫胤君曰飛彈ヲ小童カ山ニ行キ薪ヲ負ヒ帰ル時鷲来リ負フ所ノ薪ヲ両足ヲ掴ミ嘴ヲ以テ前部ヲ啄ミントセシヲ

童ハ早クモ其辺ニアル樹木ヲ握リ見保チ其鷲ノ足ヲ捕ヘ纒
ヒテ其脚ヘ縛リ附ケ置キテ帰村シ大人ヲ伴ヒ行キテ生
獲セルヿアリ其童成長シ近年存命ノ老人トナリ鷲ヲ
生捕スルノ名高ナリシガ今ハ死シ亡ニタリト云フ

明治廿一年十一月二十一日聞ク所ヲ記ス　田中芳男

又十一月二十一日上総国夷隅郡山幸ニ於テ鉄砲ニテ鷲ヲ打留
池田栄亮方ニテ剥製ニ頼ミ置ケタリ大サハ翅ヲ延ニテ七
尺余アリ剥製ニ致シタルが如何ニ致シテ宜カラントト織田完之君ノ
談アリ因テ若シ之ヲ博物館ノ田中芳男君ヘ謀ラバ贈セ
ニ集内ニ帰セン天付スベシト申者ニあり　二月二十三日記

紙儀扱

鷲 [illegible]
此鷲ハ[illegible]
全ク老[illegible]
又ハ[illegible]
実係[illegible]
棲メル[illegible]
又関東[illegible]
在多[illegible]
全区下[illegible]
又此事[illegible]
設ケ其[illegible]
縄ニテ杭ヘ傳ヘ尚メ又其縄ヲ砂ニテ悉皆埋メ置キ此件

鷲ノ剥製拝見難有奉存候
[illegible]
[illegible]鷲ノ一説奉
[illegible]
[illegible]
此段[illegible]申上候
拝具

鷹ハ早ク其辺ニアル樹木ヲ登リ又其足ヲ其鷲ノ頸ヲ捕ヘ縄

テ耳揃

獲セ人

生捕ス

明治

又一日

池田宗

号信

註アリ

ニ集

二月九日

田中先生

田中房種

鷲　大羽　明治九年一月　日上総庫郡山梓巣ニテ猟殺捕獲ス

此鷲ハ尾白鷲ニテ頸ト尾ノ末迄一丈有翔ノ末迄七尺余ニシテ

余程老鳥ト見ユ翔目今世上ニ風説スル所ヲ聞クニ庫郡山辺

又ハ諸山辺ニ多ク栖ノ横板アルトノ事ナレバ有余トモ少シハ諸山ニ

実儀モアルベクバ又昨今所ニテ捕獲ノモノアレバ按ニ皆諸山ニ

棲メルモノナラン

又関東ニテ古ヨリ鷲ヲ捕獲セシ事ハ旧幕府ノ頃武蔵

荏原郡羽田村地先海浜ニテ鷲御用ノ猟場アリ

全区下御鷹匠組頭ニテ此役ヲ奉シ猟場ヘ出張

スル事一毎年冬季ニテ最モ寒キ時ヲ好トス又猟場ヘ小屋ヲ

設ケ其所ヨリ少シク距リテ餌物ニナ狗猫ノ腐敗セシモノヲ

縄ニテ杭ヘ結ヒ留メ又其縄ヲ竹ニテ悉皆埋メ置キ此時

鷲ハ上総ノ鹿野山ヨリ出デ来リテ諸場ノ上ニテ定申ヨリ
飛舞スル事一三四日ニシテ多クハ東ノ稍夜ノ明ントスル頃
俄ニ下シ来リテ其餌ヲ捕去ルナリ此中業ヲ設ケシ小屋ノ
中ヘ夜中ヨリ潜伏シ東ノ明ヲ待ツニ果シテ前ニ云フ如ク
下シ来レバ遂ニ銃殺シテ之ヲ得ル法ナリ
猟殺ハ少キ年ハ壱羽多キ年ハ五六羽ニ及ブ又此鷲ハ稀ナリ
多クハ犬ワシ尻カツラワシナリ
右ニ著スルハ近世作友ノモノ全ク見聞ニテ猟師ヨリ聞キ得タル者ヲ
譲リシ事アリ今鷲ノ由緒ヨリ思ヒ出シバ大体茲ニ記スル
所也

廿一年十月八日

田中房種

出雲西郷名族近江守鉄砲ヲ損ス天皇母西郷ノ御頒
拝領致シ先般西郷殿ヨリ
御廻シニ相成候鷲ニ付テモ
早々御返却御尋ノ品之
事ニ御座候処是迄御取調ノ上ブラキストン氏ヘ
謹シ洋名

Circus cyaneus, L.

(Hen Harrier.)

右申上度存候拝具

十六年十一月九日

田中房種

田中先生

[illegible]

益々御[illegible]
[illegible]
様ハ驚[illegible]
大ニデレマンリ人ノタレベスカラハ[illegible]
テ[illegible]
主ニ輸入[illegible]
り廿五日ニハ宮内大臣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

本郷區役所

七年二十五番

田中芳男様

小梅村

清ますや

多田

大日本郵便

JAPANESE POST

はかき

此表面ニハ宿所姓名ヲ限リ認ムヘシ

東京大学総合図書館

シマフクロ

北海道ニ産ス尋常ノ角鴟ヨリ大ナルヿ数倍全身灰色ニ淡褐ヲ帯ヒテ漣漪ノ黒斑アリ頭上左右（羽毛）聳立シテ二ノ角状ヲ為ス眼黄色ニシテ大ク嘴脚灰色ナリ前趾二後趾二アルヿ縁木鳥ノ如ク爪ハ殊ニ鋭シ

ラハナイシコ　籠中産卵鶵化之説

神田区三崎町市川兼恭氏方ニ六七年畜ヒタルラハナイシコ一双アリ四五年前ヨリ年々卵ヲ産ス本年モ五個ノ卵ヲ産シ其内五個鶵化シ今日ヨリ二十三日目ナリトテ其大サ殆ンド親鳥ノ如ク且幸ヒニ雌雄ナルヨシ今ハ二双ノラハナイシコトナレハ楽シキヿナリトテ其籠中ニ養フヲ見タリ実ニ同氏ノ語ニ違ハズ因テ是迄ノ事共ヲ聞クニ曰ク徳川家ノ頃大奥所様ヨリ水戸家ヘ拝領ノ鸚哥ハ毎ゝ卵ヲ産シタルヿアリシモ話ヲ聞傳ヘタル鳥屋ノ話ニハ凡外ニハ絶ヘテ巣ニ就キシヿヲ聞カズト又其卵ハ白色純潔ニシテ圓形ナリ生年来産卵ノ頃ハ他鳥ノ如ク藁ヲ以テ巣ヲ作リ甚〻[illegible]

嘴ヲ嗆切リタレバ時脚ヲ四方ヘ散シ遂ニハ卵ヲ板ノ上ヘ落スニ至ラン
遂ニ卵代モ又人手ニ觸ルヽニヨリ近ヅカザル等ヲ本年迄ハ功ヲ奏ザリ
シガ今年ハ鋸屑ヲ巣中ニ入レ又其巣ハ深クシテ上邊ノ樋ハ
ヨリ内部ヘ入ル様ニ作リシガ果シテ卵代ニ適スルコソ謂タリ
又雛ハ十九日目ニ至リ親鳥夜間ハ外出シテ温メズ而シテ廿三日目ニ
眼ヲ開キ二ケ月ヲ経テ親鳥ノ大サトナル然レ氏尚較小シ又毛色
モ白ク毛色淺シ雄ノ縁毛ハ雌ヨリ美ニシテ頭之体モ大ナリ親鳥ニ於ルハ
殊ニ甚シ食餌ハ白黍ヲ外ニ生樹葉ヲ與フルハ好ンデ食スルナリ
捿ニ育養ノ適カルニヨリ遂ニ庭卵卵代ニ至ルコノカ
明治十四年七月十三日聞見ヲ記ス　田中芳男

慈悲心鳥

下野日光山紀伊高野山其他諸國深山ニ産ス全躰鳩ヨリ稍大ク頭背尾共ニ黒褐色ニシテ鷹ノ羽ノ如ク微ク白羽ヲ雜ユ腹部ハ白色ニシテ褐色ノ斑アリ頭大クシテ扁ク眼邊黄色嘴小クシテ黒色脚黄色前趾二後趾二爪黒色ニシテ鈎様ナリ

文部省
東京大学総合図書館

鳳頭即鳳頂

壓口接子ニ作ル鳳頭ハ犀鳥嘴タルヿヲ知ルト雖モ其ヲ稀有ナルハ明瞭ノ説ナシ近年外交ノ開ケルニ従ヒ全嘴或ハ下顋ナキモノヲ輸入スルヿアリ其形ニ稍大小アレ氏高サ四寸許（下顎共ニ）長五寸余ナリ而シテ外面ハ光ヲ以テ磨キタリ嘴及嘴上ノ突骨ハ深黄色ニシテ嘴根ハ深紅色ナリ切リテ壓口接子ニ作ル所ハ突ノミニシテ厚サ八分余アリ表面ニ紅色ノ層アリ之ヲ磨キ圓形トスルハ黄色ノ一方ニ赤眼ヲ顕ハス是一方ニ赤眼アリトス可キモノナリ又兩方ニ赤眼アリトスルハ小キモノヲ磨キ出スナリ然レ氏大低一方ハ真ノ赤眼ヲ一方ハ貼附シタルモノ多シ是非瑁ノ如ク偽看スベカラズ慎ミテ見ルベシ而シテ厚キ突ヲ免レ部ヲ厚キ大ヨリ内部ハ白色髪珠ナシ海緑映ノモノニシテ恰モ氷餅ノ如ク用ヲナスベカラザルモノナリ

小野蘭山翁ハ此鳳頭ヲ以テ本草綱目ノ水禽類（陸禽類ヲ合ス）ノ鸀鳿ニ充ツ然レ氏其説ヲ讀ムニ巨嘴鳥（ツーカン）ノ如ク角嘴鳥（ホーンビル）ノ如ク決シテ鳳頭ニ非ス又図経ヲ見ルニ形鶴ニ似テ嘴ハ巨嘴鳥ノ如シ唯本草綱目啓蒙ニ引用スル所ノ

事物紺珠ノ鶴頂鳥ノ說及ヒ典籍便覽ノ說ハ鳳頭ニ符合ス 又廣東新語ノ說ハ本草綱目ノ說ト大同小異アレト 又觀文會譜ニ載スル所ノ泉新亭ノニ見タルト云フ嘴ハ角嘴鳥ナルベシ故ニ本文ニ的セザルヤノ說アリ 随観写真ノ図ハ真ノ鳳頭ナレ共其漢名ハ蘭山翁ノ說ニ從ヘリ 以上ノ數書ニ據レハ鳳頭ハ鯨鱆ニ非スシテ事物紺珠ノ鶴頂鳥ナルベシ 然レ共本草綱目ノ一名ニ鶴頂ノ名ヲ載スル件ハ時珍モ各說ヲ集メシマデニテ各種異同ノ区別立タザルモノヽ如シ 雲停氏遺稿ニ鳳頭之頭ト云フ図アリ 邏羅ヨリ傳フルヿヲ記ス 是ハ角嘴鳥ノ嘴ナリヤ外ニ真物ノ図モ各種アリタリ

鳳頭ノ西洋名ハ椎氏動物序ノ内五冊ノ鳥図ニ図ヲ載ス 佛名 Tête de Calao à Casque rond. トアリ ストミイ氏大字書ヲ按スルニ 羅甸名 Buceros galeatus. ト云フ 瓜哇及蘇門答剌島ノ産 嘴上ニ圓キ瘤アリ 前面ハ大ニシテ稍ト方形ヲナスト云フ 然ル件ハ全ク角嘴鳥ト同属ナリ

明治十六年八月十七日 博物局大座課ニ於テ 田中芳男記

魚狗之巣

長田銈太郎氏曰 先般濱の御庭ニ至る 赤土の切崖ニ穴あり 魚狗の巣なりと聞く 之を窺ふに 穴ハ漸の鳥の往来する位の大さなりしに 甚た深し 内部の様子はわからされと 最も奇異なるハ 穴の内部ニ蛞蝓の胸壁を築くなり 夫ハ蛞蝓を啄来りて環状ニ穴の周囲へ着けてありし 是ハ蛇を防くの策ならん 蛇の蛞蝓を厭ふハ人の知る所 魚狗の蛞蝓を以て胸壁とする 実ニ其の深ニ符合すと云ふべし 云々

明治十六年十月廿二日 田中芳男記

一ワクミノ味噌酒糟漬 一

三河國加茂郡稲橋村

産

右此物ニツ共ヒトツヲ焼食

ミタリシニ新鮮ナルモ一ノ風

味アリテ [illegible]

[illegible]
田中様

石川縣産 塩ツムキ島
最初水ニテ洗小細ニ切リ塩出シ
昆布ダシ又味噌汁ニテ食ス

[illegible]

頸環雉

宮城縣十文字信介曰 陸前玉造郡ノ或部落ニ限リテ一種ノ雉アリ 頸ニ白環ヲ被ラス 甚大ナラス尋常ノ雉ヨリ較小形ナリ 但シ雌ハ如何ナルヤ未タ研究シ能ハス 世ニ高麗雉ト云フモノアレトモ大ニ同シカラス 又此禽ハ山地ニ入ル時ハ頸太ク短ク 冬月海手ヘ出ル時ニ頸長ク見ユ 之レ肥瘠モ亦之ニ因ルナラン 又近年支那ノ雉ヲ見ルニ我尾ヨリ一倍大ナリシト云フ 又此雉ハ世ニ珍敷ニヨリ食剥製ニシテ贈ラントス云々

明治十八年十二月二十日

田中芳男記

[illegible]

東京大学総合図書館

宗易年十六ノ時庵ノ花ニミセ
ハ甚宜シトノ説モ不申出
且紹鷗ニ師事シ天正ニ
師氏ノ知ル所ニ[illegible]シテ此ハ
工夫ノ珍器逸シテ[illegible]路
宗易茶道古愛機者ニ[illegible]
備ヘ[illegible]待[illegible]ノ[illegible]
後ニ能子丸刺ノ[illegible]
ノ作ニ堆朱一同[illegible]
取ハ宗ハ画堂ノ能子[illegible]

一　ハバリンガ印　鉅轄ト謂ス者一
種（唐之ヲズーカケト云フ唐ノズーノ如ク見ユルヨリノ故ナリ）ノ紙
ヲ一枚宛下玉造ノ山脈ヨリ下
リシ品井沼（大松沢村七里ヨリ）近傍ニ
在ルリ村ヨリ出ス者ニテ之ヲ八九十ヲ合
拵ル印再通ノ後之ヲ紙著ニ
方ニ出サズシテ作ル紙ノ麁
ニ貼ルモ中通敷陵ノ右ニ[illegible]ニハ
高丸ムキニシテ丸ノ他ヲ[illegible]
ヲ込ミ剥製ノ前ニハ油ヲ以テ[illegible]
韓[illegible]ニシテ仁王本ニテ生近山ニ
護ルモノハ時ニ一尾[illegible]班点
[illegible]白ニ[illegible]鳥保（羊口黒下）色ノニ

[illegible]一作[illegible]

ナル者ト両羽ニ限リ班白色ナル者

ト二羽ノ斉雑リ[illegible]右ハ[illegible]

[illegible]ナラレマヽ利[illegible]ヲセズ羽毛ヲ保存

[illegible]丸者一羽[illegible]

御座候　右ハ早速[illegible]

上ノ如ク筆録ノ趣ハ[illegible]

ノ為ノ遷延ニ付先ハ右迄

[illegible]十二月[illegible]

[illegible]

田中先生[illegible]

[illegible]

雑卵[illegible]

アリ且[illegible]

[illegible]

[illegible]旅スルノ保存ノ[illegible]

テイラ[illegible]乾燥[illegible]

[illegible]且カステイラモ上等ノモノ[illegible]ルベシト[illegible]

[illegible]

[illegible]ビーカル[illegible]完全ナルモノ

ノ豆一作[illegible]上[illegible]ナリトセシ
ナル者ト両羽ニ泻リ班白色ナル者
トニ羽ノ斉[illegible]雑リ[illegible]右ハ初
アトノシマヽリ[illegible]ラズ羽毛ヲ保[illegible]

一 雞蛋白

其卵白ハ粘稠ニシテ溶解スルモノナリ 本邦ニテハ漆器
雞卵ノ生ナルモノヲ使用スレ[illegible] 時トシテハ腐敗シタルモノモ
アリ且極メテ良ニ[illegible]限分腐敗シ玉子ノモノニテ[illegible]
混濁シタルモノニテ或乾燥シタルモノヲ用ヰハ本ノ
如キ少ニ[illegible]等ノ為ニ混淆シタル[illegible]ノ便アリ 蓋シ[illegible]
テイラブボン[illegible]粘ナル後ニ蛋白ヲ取リテ乾燥シタルモノハ便
利ナリ且カステイラモ上等ノモノ粘ヲ得ラルベシト想
像セル[illegible]毎[illegible]ニ[illegible]
比ニ[illegible]蛋[illegible]中[illegible]果ヲ完全ナルモノ

出来得べき丈ケ明言いたし置候半

先ニ御相談申置候様致し出品得ト御手配被下

度尚又御心添之程偏ニ願候也

右得貴意候也

田中先生閣下　　伊[illegible]

五月廿一日

[illegible]

農書編纂掛

田中芳男殿　　[illegible]

[illegible]

了し手ノ方ハ出品弐号

買入方之御申越度敬

[illegible]

出来得べき丈ケ明言いたし置候へ共若し実
地ニ於テ相用ゐ得候様致し此品御引受御示下
度尚此心得置候様一応申上候
右申上候

田

寄居鯛 大鯛

右者先比小笠原島出張
ニ付持帰り剥製ニ致シ候
置キ候ヘ共他ノ貝類ト
共ニ持帰リ候ヘ共未タ臭気
有之候ニ付当分日々回ニテ乾シ

土産其鶏 三羽 雄壱羽 雌二羽

右者小笠原島出張之節相持参致シ
来り候モノニ付尚可成壮大ナル
事ニ候モノニ付出張ノ節弐羽
買取ニ致シ飼育致シ[illegible]
候へ共[illegible]

御猟[illegible]長山口ニ於テ記
[illegible]献物ニ付[illegible]
[illegible]古画ニテ大ニ御恐
悦[illegible]
[illegible]
[illegible]上[illegible]博物[illegible]献[illegible]
[illegible]御[illegible]
[illegible]御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
十一月[illegible]
山[illegible]
田中君 侍史

[illegible]
竹
項
相
ト
ダ
如ク佯絲入学ハ一寸許佯ハ時ハ五寸許是ヲ食
スルニ味尤好ト是即カラクレナラン
学廿七八日ニテ学ス脚弱シ菜ヲ細カニキリ水ニ浸
セシ米ニ和シテ餌セシムヘシ弱キ雛ニハ鰻鱺ノス
リ餌ヲ餌トスヘシ [illegible] 弱ク餌セシムレバアシヽ
ノ 甚 考 岩 色

○からくん

観文禽譜 巻三（中、本）

からくん カラクーン 番語

漢名 墨斯可国雞 坤輿外紀

近年蕃舶ノ齎シ来ルナリ蓋シ形ハトウマルノ如ク灰黒色頂上ニ肉冠アリ常ハ少シ垂ル時ニ垂ル 其色紅碧相雑ハル足ハ雞ノ如シ長崎ノ西川某カ華夷通商考ト云書ニモ「モスコビヤ」国 一名「ムスコビヤ」ノ雞ハ鵞ヨリ大ニシテ羽毛甚ダ美ナリ冠ト觜トノ間ニ長キ鼻アリ其鼻象ノ如ク伸縮ス常ハ一寸許伸ル時ハ五寸許是ヲ食スルニ味尤好ト是即カラクーンナラン

孚廿七八日ニテ孚ス脚弱シ菜ヲ細カニキリ水ニ浸セシ米ニ和シテ餌セシムベシ 弱キ雛ニハ鰻鱺ノスリ餌ヲ餌トスベシ 其后ソロソロ常ノ餌セシムレバアシヽ

蘭人云カアフニ産ス　ト蘭山云坤輿外記墨斯
可国有雞大如鵞羽毛華彩味最佳吻上有鼻
如象可伸可縮僅寸余伸可五寸許惱怒則血
聚鼻正赤尾開屏如孔雀　コノ吠ヨリ合ス　墨斯可ハ亜墨
利加洲ニ属ス

明治二十年十一月廿四日
植木吉太郎〆季明目録

一　七面鳥　五
一　南山雌ニコーチン雄ノ懸合　六
一　シャム　三
一　ミノルカ雌ニスパニシ雄懸合　三
一　チャボ　三

〆弐拾個

七面鳥卵ノ重量 六個ノ内

十七匁五分 三個

十六匁五分 一個

十六匁 二個

東京大学総合図書館

一家禽貳拾五羽

内

○ライトブラマス五羽　代金拾五円

雄貳　雌三

是ハ元来印度地方ノ産ニシテ貳三十年前ヨリ東国ニ渡リ改良セシモノニシテ冬期生卵ニ適セリ身体大ニシテ若シ之ヲ肥シタランニハ雄ハ壹貫二三百目雌ハ八九百目位ノ量目ニ達スベシ

○ブラックスパニッシユ　貳羽　代金八円

大日本農會

壹番

是ハ顔面ヨリ耳ニカケ白キモノニシテ已ニ渡來シタルモノト覺ユ

○プリモース。ロックス　四羽　米金拾円

二番

一番ハ「ロッス。コム」一番ハ「シングル。コム」ナリ身体亦偉大生卵鷄ニ適ス米國産ナリ

○ホワイト。レグホンス　三羽　米金八円

雄貳雌壹

是ハ元來伊國産ニシテ數十年前米國ニ渡リタルモノ是レモ「ロッス」ト「シングル」トノ兩花冠アレ𪜈生ノ取寄セタルハ「シングル」花冠ナリ寒地ニテハ霜ヤケノ患アリテ飼養ニ適セザルヤニ考フ是亦生卵鷄ニシテ稀レニ巣ニ就ク鷄ナリ

○ゴルデン。ポーランドス　貳羽　米金拾貳円

壹番

是ハ昔ヨリ本邦ニ渡來シアルモノニテ蘭鷄ナリ身体本邦産ノモノニ倍シ卵ノ量目拾七八匁位ナリ

○ウーダン　貳羽　米金五円

壹番

是ハ仏國産ナリ或ハ云フ昔シ英ノ「ドルキン」ト「ポーランド」ノ雜

大日本農會

東京大学総合図書館

種ナリ是亦生卵鶏トシテ有名ノモノナリ

ロ　ブラックロ　ラグレヤン　　三羽　　代金拾弐弗

内壹羽ハ航海中死セリ

壹番

是ハ北支那ノ産ニシテ米國ニ渡リ改正セシモノ身体偉大
俗ニ九斤ノ大ナルモノ亦生卵鶏ナリ

右ノ種何レモ注意ヲ怠ラサレハ本邦ノ氣候ニ悩ムノ患ナシ
如何トナレハ永キ航海中非常ニ衰弱シ中ニハ死スルモノアラン
ト懸念セシタリシニ飲料ト食料トニ注意シ飲水ハ一度之
ヲ沸騰シテ小量ノ硫酸液ヲ混セ其ノ冷却スルニ於テ之ヲ
與ヘ又食料ハ二日毎ニ昔ハ時トシテハ肉ヲ煮出シ之ヲ細末ト
ナシ少量ノ粃ヲ與ヘ又ハ牛乳ニテ「フスマ」ヲ浸シ和シテ重ニ
生食ヲ増スル事ニ勤メ氏寒天ニ堪ヘレメントセシニ昨今ハ
頗ル健康ナリ何レモ生卵ヲ始メタリ

右他ニシテノ委細猶報道ノ暇ナシ不取敢概略而已ヲ記
シ猶不明ノ事モ有之候ハハ存候得ハ更ニ御問合
相成度候頓首

六年一月廿日　　伊藤銓一郎

平野源造殿

本文運賃等ノ記載ヲ忘レ候ニ付裏ニ左ニ

米金六拾八弗　家禽廿一羽代

同　参拾弗　運送費

同　七弗五拾仙　船中手当等

〆

米金百五弗五拾仙

此銀貨凡百貳拾三圓

東京大学総合図書館

鷺蓑毛件

一明治十六年十二月十九日降局際神田五軒町三番地羽根細
工商人松山〻申方ヘ立寄問合候処同人甥之ノ者ニ羽根問
屋當所ニテ當時獨立ニシテ羽根細工営業ノ仁有之ニ付兼テ置
候之申ニ二十日正午迄ニ否相分ル約束ニ付猶其後同人説ニハ持
合無之注文ト云ヒ周旋仕難キ由其実村民當節
各種ノ鳥臓殊ニ鴨抔多キ季旬故ヲ以テ鷺ヲ捕ル事休業
ニ因テ送リ来ラズト云々

一西黒門町弐拾二番地池内仙吉ハ羽根問屋仲ニ因テ問合云仕
入合無之注文ニ應ヒ来春ニ至ラザレハ請合仕兼ル由

一浅草随身門内花屋敷花月堂ヲ或人ヨリ兼リ因テ訪
越持合ハ一二ニシテ小サク殊ニ黄色ニ染メ外無之同人説例
年夏前明ヨリ鷺病ノ為ニ羽極落ル事甚多キ土地有

京都 [illegible]
東京 [illegible]
[illegible]

東京大学総合図書館

是ヲ捨集メ送ルモノナル由ニシメタル鷺ノ蓑羽ニテハ東京花簪職
入用ニハ足ラザルモノナリ昨今ハ土豊辰ヨリ送リ来ラザル旬ナレハ何
方ヲ以尋ニ可成ル所持無之ニ存候及候而問合アラハ同職ハ
住宅ニ而案内仕ヽ申 因テ案内ヲ請先ヽ先数ケ所相尋候
得共説無之家ハ性名記スルモ無益ナレハ省クニシ有之名ニ記ス
一 馬道花簪標札モナキ如何ノ居宅ナリ同人持合無之 同職ノ
者昨年買メ当年ハ村方ヨリ送リ来ラズ春ニ相成候得ハ有之ニ
歯節ハ持合ノ仁六ケ敷趣ヲ申
一 馬道花簪職 重同名ナレ共前条ト仁ハ別ナリ同人云昨
年職業ノ為他ニ売買スルモノ有時ハ不都合ニ付東京ニ在合ノ分不
残買取其後更ニ送リ来ラズ我所有スルモノ遺残ニ而得共又ハ
細工ニナスベキ見込候明年夏迄置物ナレハ代價ハ是非ニ因テ議(ハ)ニ問
屋ヨリ買収ノ價ニ税分歩割ヲ付可申 併ハ外ニ無ニ付近所ゟ

借来リ改置候得ハ近日ニ而おアレト云余リ不極リニ付押テ問(ハ)乞
(ヒ)ハ拾目アル(ヘシ)量目拾匁ニ付金壱円ニ換ト云是ヲ聞ニ及ル
○附云右職業ニハコサギノ方ヲ好ム其訳量目カヽラズ潔白色
柔毛ツンテ自然美ナリ故ニ價高シト云ダイ鷺量目カヽリ剛毛
ニシテ羽ツマズ今実検スルモノハ上等品ダイサギノ羽ナリトテ尤コサギ少シ
交比較スルニ前条ノ如キ品位ノ差アリヨゴレテ淡黒色ヲ帯タリ
是ヲ無色トスル時ハ如何ト問方法灰アク汁ニ浸振洗フ時ハ白色
トナルヨシ
一 日本橋魚市場東国屋鯉家小山三郎其他鳥商持合ヲ問
売羽モ無之又依頼シテ捕ラシムル事ヲ問ニ周旋最早ニ無之
故請合兼ル由
一 本町三丁目羽根問屋鈴木方ハ仕込無之 昨年成田不動
ノ為ニ構中 梯ノ花簪ニ用ル事アリ因テ沢山高ク売後在ゟ

東京大学総合図書館

送ラズ然モハ花簪職遺残ヲ尋アルベシト云

一 本材木町辺ニ羽根細工各種商ノ者アリ尋テ見ルニ無之京橋辺中ニハ右細工品職業ノ者壱人モ住居セズト云

一 芝神明前花ノ露屋ニ花簪職ノ居住ヲ問ニ小間物商ニテ職業致スモノ露月町ニ壱人在其他芝辺中ニ居宅ナシト云 何レモ浅草又薬研堀辺ナルベシ職人ニ為所持スル者ハ稀ナリ茅町羽佐ニハ有ベシト云

一 露月町小間物商花簪職持合無之 花ノ露屋ト同説

一 上槙町尾張屋ト申小間商云 薬研堀不動前錦花堂年来盛大ノ職業ナルヨシ又本所御蔵前ヲ案内ス

一 薬研堀金花堂ハ居小間物ニシテ花簪ヲ造ル持合アリ依テ譲請ル即ゴサギニテ羽大小交殊ニ肩モアル品量五匁付金七十五戔ニ換ヘ同人説ダイ鷺ヨリ小サギノ方好ムヨシ前ノ仁ト同説此羽入手スル旬ハ夏ノ末ヨリ秋細工ニナスハ夏ナリ

一 本所御竹蔵前簪職住居アルノミ花カンザシニ非ラズ其後地ヲ問ニ年来居住致在ト揚共何レニ有ルモ不知番場ニハ多人数アリ因テ委細問合スニ全一時ノ品ニシテ縁日杯ニ於テ商ノ極下等品ニシテミノ毛遺ヘ少シ用ユルト云モ昨今近所有スル者必ス無之ト云 然レハ参ラズ 浅草紅勘横町案内スル

一 浅草紅勘横町ニハ職業ノ者居宅ハ不知堀田原カトウ長屋ハ紅勘横町地続ナレハ是ナラン乎 即本名浅草新福富町爰ニ住スル渋谷熊次郎ト方ニ尋問ニ持合無之 此近傍同職ノモノ多ク住居スルトニ付持居スルモノ必無之由ニ付不尋浅草須賀橋ヲ案内スル

一 浅草須賀橋花簪職ハ甚地ノ者云 ニ盛大ニシテ美品ヲ造居ニ付先所何方ヘ乎転居仕由

一 浅草銀華堂如キ鷺ノミノ毛杯用ル品ヨリ上等ノ細工ニシテ

今般此[illegible]書到来[illegible]
メヂカハソウダノ由[illegible]
[illegible]
メヂカハ[illegible]
[illegible]メヂカ[illegible]
[illegible]
[illegible]
芝西ノ窪[illegible]田町[illegible]
[illegible]新[illegible]

[illegible]

持合無し右同程ノ仁又尋ヌレ氏転居シ地不知又所持セザル等
ノ家甚以多シ或家ニ依テハ細工用ノ品ニ付農家ヨリモ寄セ申ニ付持
ハ居候ニ付兼テ私共へ借受候儀ハ仕兼候由
一 神田橋本町小間物店忻京某外同商ノ説ニハ浅草又薬研堀
或ハ山ノ手ニ住スル者アリト云山ノ手ハ何レノ辺ナルヤ不知
一 神田区本石区下谷区花籠職住居セスト某云然ル迄下谷ニハ
某人アリトモ町名ヲ失ノ尋ヌル手続ヲ掲ス村並所湯町辺ニハ
住居人有べキ所ニ類尋スレ氏見ヘズ

右ノ通取調仕向合申候也
明治十六年十二月
寛正明

[illegible]

善右衛門

[illegible]

○ [illegible]

○ [illegible]

○ [illegible]

一 [illegible]

地不知又所持セザル等

辰家ヨリ下寄ニ而[illegible]

[illegible]由

説ニハ浅草又薬研堀

辺ナル由不知

又ハ薬研堀辺下岩ニハ

掲ス村里所湊町辺ニハ

[illegible]正明

東京大学総合図書館

京橋南伝馬町壱丁目[?]

急飛脚　羽根屋　文左衛門[?]　善屋[?]

[illegible]　出[?]ツ又屋[?]

[illegible]何[?]…[illegible]

[illegible]…一旦[?]世[?]ハ此[?]見ル[?]より

田中町[?]　中島[?]

地不知又所持セザル等

辰家ヨリ未寄[?]テハ二ル[?]場

篆[?]由

説ニハ浅草又薬研堀

辺ナル屯[?]不知

又ト並[?]然ル廻[?]下宕[?]ニハ

掲ス村[?]町濱町辺ニハ

寛[?]正明

大手方[?]、山本一兵衛[?]出[?]して

[illegible]

広屋[?][illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

京橋南鍋町

先般羽根

小島屋等

月番

田中様

昨日伊蔵原

右之義

河原出来

利積

十一月

田中様

中島

地不知又所持セ九号

東京大学総合図書館

遂一覧候、[illegible]国[illegible]之

[illegible]城中[illegible]

存候、別段[illegible]申越[illegible]

中[illegible]此度[illegible]

[illegible]此度[illegible]

而[illegible]

[illegible]貴[illegible]随[illegible]

寺之

[illegible]

○[illegible]

早速[illegible]

[illegible]

大方[illegible]

早速[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月五日

田中様　中島

大日本農會

笹乙風 [illegible]
[illegible]
[illegible]

鷸ノ毛ヲ以テ [illegible] ナリ [illegible]
鷺ハ一番ノ羽ニテ [illegible]
[illegible]
黄ナル [illegible]
[illegible] 山東國産 [illegible]
[illegible]
一ラコツケイノ毛組立ル [illegible]
尾羽ノ毛物 [illegible]
手白 [illegible] 也

田中 [illegible]

[illegible]

田中 [illegible]
[illegible]

農 [illegible] 図書

東京大学総合図書館

田中様

田中様

東京大学総合図書館

野芝考

明治元年冬十一月十[illegible]

[illegible]

ケリ

ケリノ類ニホンケリ シマケリアリ羽ニ斑群ヲナス

ヤマゲリ（カヅラアリ）二筋 等アリ此図ハホンケリニ

近シホンケリハ俗ニ労症ノ薬ト云 鳩ノ程ノ

大サニシテ脊黒光リアリ只ケリト云モノ此ナリ

此鳥ハ千鳥ノ一種ニシテ冠毛アルモノナリ因テ今西洋ノ

説ヲ取ニ譯ヲ出ス

大坂ノ名

ノシバ 即シマケリ

大サ鳩ノ如シ背上ニ鑛光アリ

生魚ヲ餌食ス

ニケニゲル氏荷蘭會譜ヨリ抜萃希ッヒボイス說

Kievit (Vanellus cristatus) *gekuifde kievit*

此美麗ナル渉水鳥ハ身ノ長サ一尺許アリテ凢野鳩ノ如シ、頭後ニハ上ヘ反曲セル頗長ノ冠毛アリ故ニ一名小野孔雀ト呼ブ、嘴扁平ニシテ甚太ク其色黒シ脚ノ後趾ハ甚短ク漸ク地ニ達スルノミ全脚ノ色ハ赤褐ノ肉色ナリ頭ノ両傍胸下、腹、翅下、尾羽ノ上半分ハ白色ナリ其尾ノ蓋羽ハ灰白色ニシテ其他ハ全身皆黒色ナリ尤頭上ト頸ニハ鍮緑色ノ光輝アリ翅羽ト尾羽ノ後半分ハ少

シ蒼色ヲ帯フ皆上ハ青銅様ノ緑色アリ肩ノ羽
毛ハ銅赤ヲ帯ビ翅ノ上ハ鋼青色ヲ帯ブ」幼ナル
者ハ暗色ヲ帯ビ惣テ淡白ナリ其羽毛ニハ皆辺
縁アリ」吠鳥欧羅巴ニ於テ郷化シ繁殖シ北方ハ
六十一度ニ至ル其外アフリカ洲ノ北部及亜細
亜ノ強国殊ニ日本ニ産シ原野沼澤等卑湿ノ地
ニ集リ多ク團聚シテ小虫等ヲ堀リ食ス」荷蘭ニ
於テハ湿地尋常ノ鳥ニテ彼三月ノ半ニ来リ彼
九月ニ去ル其来ルヤ多ク東北ヨリシ其留ル間
長短アリ或ハ常ニ留リ冬ヲ越ス者アリ」性狡滑(コスシ)

ニシテ其声長ク続キ枯タル如キ音ヲ成セリ故
ニ荷蘭ニテ吠名ヲ其声ニ因テ命セリ且吠声ヲ出
シ急キ飛テ逃去ル時ハ屡空中ニテ轉動スルヿ
アリ」吠鳥其子ヲ親愛スルヿ甚厚シ故ニ人若シ
吠鳥ノ郷化養育スル所ニ近ケバ飛テ他所ニ入
テ其人ヲ欺キ巣ノ遠方ヘ導クヿヲ務ム」巣ハ地
ノ陥凹セル所ニ於テ禾草等ヲ以テ之ヲ作ル其
内ニ三個或ハ四個ノ卵アリ其形梨子ノ如ク帯
黄ノ緑色ニシテ灰色ノ小点ト褐黒ノ斑紋アリ
凡十七日ヲ経テ郷化セリ」吠鳥ノ肉甚美味ナル

東京大学総合図書館

ニ因リ年々ニ多ク取集メフリースランドヨリ英國ヘ輸ル又此卵ヲモ人多ク之ヲ取レバ鷄化ノ数次第ニ減少スベシニ因テ政府ヨリ此卵ヲ取ルコノ禁制ヲ出サヾル可ラズ

ピュホイス動物訓蒙ニ出ス畧圖

シケレゲル氏禽譜不載頭ノ圖

（注）田媒鳥ハ羽亂ヲ送セシ鳥ナリ

シヤク（鳥名）

此鳥ハ毎年春月ニ至リテ出雲ノ或ル浦ニ多ク群リ
来ル本国ハ朝鮮ナリトス而シテ右鴨頭ニ至レハ土
地ノ人ミナ豫メ用意セシ媒鳥ヲ浮ヘ其手ニ乗テ
多ク黏網ヲ掛ケ之ヲ捕ルコト多クス網ニテ誘ヒ下シ
右ノ網ニテ捕リ甚タ之ヲ売テ食フ他国ヨリ行キタル
人ハ殊ニ悪思フモノナシ他国ニ多クコレナシ体ハ大サ鳩ノ如シ
ニ似テ色ニ毎ニ似タリ目大ク嘴長大其趣ニ至ラス
ノタメニ肉ハ羹ニシテ油臓多ケレバ臭気ナク上品ナリ
此モノ大小アリ而シテ出雲ノ人賞ス

右ノ写真ハ しやうこ井 十八で
明治二十年四月二十九る
田芳

紙儀板

玉川鵜漁の圖解

武藏國、都筑郡、新井村にては、いつの頃よりか鵜鶘を使ひ魚を捕りて生業となせる者ありける、この處は玉川の一道二子村より上るを凡そ六里許りにして、両岸に山あり、急流箭の如くに奔りて険しきものから、香魚大にして多く出れども、網罟梁笱にて捕るべきようあらじ、殊に舟を刺し鵜を放ちてこれを捕るに難ければ、徒歩ながら鵜を水中に便ひて魚を捕ることはなりぬ

時しも明治九年十月八日、多摩郡二子の邊にて新

井村の鸕匠平藏、忠平兩人を雇ひ家養の鸕を使ハしめて香魚を捕らせたりしが、その方法を人に示さんとて、これを圖に載せ文に述ぶるを次の如し、その法ハ鸕匠一人にて二隻の鸕を使ふとなるが、先づ頸繩腹繩を取りつゝ、これに長さ三尋一尺の手繩を着けて、二隻とも同じく右の手頸に結びし後、その身ハ背に魚籃を負ひ、左右の手に鸕を架せるまゝ、水中に入るなり、斯る時、則ちに兩人ハ、圖の如き擌網を水に入れて鸕匠の左右より圍ミ流に隨ふて網を引くにぞ鸕匠その機を失ハずして鸕

を放てバ、鸕ハ上流より下流へと、水底を潜りて魚を啣ミ取るべし、その魚を啣むこと七八寸の大なるハ二頭三四寸の者ハ四五尾を取ることもちて常度と定め、鸕匠この時、圖の如く背上の籃を前に向けて、鸕の首を按へて口を開かしむれバ、その啣ミたる魚忽に出て籃の中へ落ち入るなり、若し魚を得ずして水面に翔る時にハ、「ホイ」「ホイ」と挑聲を出し、手にて水を潑げバ鸕これが為めに勢を得て、またゝくうちに水を潜りて魚を取るにこそ、その神出鬼没の妙なる、実に感ずべし、斯くて、その流に隨ふ

え凡そ三町餘りふして両岸の中、平坦安便の地を撰ミ、故の如く鸕を牽き取り両手ふ架へふがら、岸ふ上りて鸕を息ハせ、また魚を數ふるとふんど、すべて圖の如くふありし

（註）本草綱目啓蒙鸕鷀ノ条
木曽路名所図絵及ヒ
日本産物誌美濃ノ部等ニ出ツ

玉川鵜飼遊記

鸕鷀ハ游禽類中鵜鶘科ノ水禽ニシテ俗ニ鵜ト稱ス其種一ナラズ其足蹼廣張シテ游泳ニ便ナルヲ以テ魚ヲ捕ルヿ最巧ナリ故ニ養魚池ニ於テ大害アル者ナレトモ又之ヲ養ヒ馴シテ捕魚ノ用ニ供スベシ然レトモ捕魚ニ巧拙アリ海産ノ者ヲ以テ最適當トス此漁業ヲ名ケテ鵜飼ト云フ諸國ニ於テ間アレトモ美濃岐阜金華山下長良川ノ漁業最有名ナルヿ人ノ知ル所ナリ（註）

武藏多摩川ニ於テモ亦鵜飼ノ業アルヿ久シク

聞知ル所ナレバ之ヲ遊観セント欲シ同友ト謀
リ二子渡口ノ邉ナル河鍋村ノ漁師鰻屋伊左衛
門ニ命シテ其豫備ヲナサシム今玆ニ明治九年
十月八日十余人（諸友）ト共ニ二子ノ渡口ニ至リ兼テ備
ル所ノ舟ニ乗リ流ニ遡ルヿ数町ニシテ舟ヲ繋
グ時ニ網ニテ香魚ヲ捕ルノ舟アリ砲ニテ白鷺
ヲ猟ル人アリ砂上ニ歩スル信鳥（チドリ）アリ水ニ浮テ
魚ヲ瞰フ鵜アリ然ドモ野鵜ノ来ルハ鵜飼ニ妨ア
レハ速ニ追ヒ去ラシム鵜匠ハ此地ヨリ九六里
許河上ナル武蔵國都築郡新井村ノ平蔵忠平ノ

両人ニテ各二隻ノ鵜ヲ籠ニ入レ携ヘ外ニ網罩
各二人ヲ従ヘ既ニ来リテ岸上ニ憩ヒ暫ク鵜ノ
空腹ニ至ルヲ待ツ因テ皆舟ヲ出テヽ岸上ノ砂
地ニ登ル或ハ鵜匠ニ就テ豢養ノヿヲ聞キ或ハ
其鵜ノ図ヲ冩ス（按スルニ此鵜ハ魚鰹ノ雌ナラ
ン）或ハ提上ノ草木ヲ採リ或ハ飛蟲水蟲ヲ捕リ
又浅流ノ小魚ヲ捉ル等各其好ム所ニ従ヒ遊歩
スルヿ小時ノ後鵜匠ハ各一丈餘ノ縄ニテ二隻
ノ鵜ヲ繋キ之ヲ右手ニ結ヒ而シテ其鵜ヲ左右
ノ手上ニ安シ腰ニ竹籃ヲ負ヒ上流ニ至リテ河

水ニ入ルヤ二人ノ網牽ハ鵜匠ニ續テ入リ網ヲ牽テ其左右ヲ囲ミ下ザ三人鼎立シテ三稜形ヲナシ同齊ニ流ヲ降レバ香魚ハ網ニ遮ラレテ皆鵜匠ノ前ニ集ル此時鵜ヲ放テバ鵜ハ随意ニ水ヲ游泳シテ香魚ヲ啄ミ出テ嚥下シ又水ニ入リ啄ミ出テ又入ルヿ數次其嚥下スル魚ノ數大ナルハ二三尾小ナルハ五六尾ヲ度トシ牽寄テ頸ヲ握リ嘴ヲ開キ胡中ニアル魚ヲ吐却セシメ籃中ニ入ル香魚ハ皆身ニ創ヲ被ルト雖モ水ニ入ルレバ尚生活セリ鵜ノ香魚ヲ捉ルヿ甚タ神速ナレバ一泳シテ一魚ヲ獲ザルナシ然氏或ハ水上ニ浮ヒ暫ク休憩ノ状ヲナシテ捕魚セザルヿアリ此時鵜匠聲ヲ出シ手ニテ水ヲ灌ゲハ忽チ水ニ入リ魚ヲ捉ルヿ前ノ如シ如此捕魚セシメ次第ニ下流ニ至リテ皆岸上ニ登ル鵜匠ハ両手上ニ鵜ヲ安シ網牽ハ網ヲ携ヘ三四丁モ歩シテ上流ニ至リ又水ニ投シ捕魚スルヿ初ノ如シ如斯スルヿ四五廻ノ後ハ皆午食ヲ噬スル為ニ岸上ニ登ル網引ハ網ヲ環形ニ敷キテ曝乾シ鵜匠ハ各ニ鵜ノ手縄ヲ解キテ乾網ノ中央ヘ放チ

休息セシム然ルニ鵜ハ其羽ヲ乾スニ歩スルヿナク又飛ブヿナク更ニ逸去ノ念ナク唯一処ニイ立ス其馴タルヿ見ルベシ午後ニ至リ又漁スルヿ前ノ如ク數廻ニ及デ罷ム凡四鵜ノ一日間獲ル香魚ノ數大小一千餘アリ然ドモ此河ノ香魚ハ他國産ト異リテ大小不齊ナルヲ常トス小ハ二三寸ヨリ大ハ七八寸ニ至ル其内大ナルハ十中ノ一ニシテ三四寸ノ者ヲ多シトス又他ノ河魚ヲモ捉ルヿ屡アリト云フ此地ニテ香魚ヲ焼煮シ又膾トシ鮮食スル等頗ル美味ヲ覺フ而已ナラズ且捕魚ノ實況ヲ目撃シ大ニ知見ヲ廣充セリ殊ニ天色晴朗氣候暖和ナルヲ以テ遊観ニ於テハ實ニ好機會ト云ベシ（因テ中島仰山氏ニ其鵜ト鵜飼ノ景況ヲ図セシメ巻末ニ）同行ノ人負フ載ス~~ル巻末ニアリ~~

明治九年十月

田中芳男記

同行人員

[redacted]

伊藤圭介

伊藤謙[redacted]

小野職慤

田中房種

服部雪齋

中島仰山

織田信德

小林常賀

小森頼信
鶴田清次
小島延壽
永田宗信
高野則明
田代安定
山田清慶
武藤壽
黒澤知義
寛正明

城田政吉
升阪信敬
小田茶安
藤本伊明
曲直瀬道三
園丁　貳人
車夫　四人
案内者 花戸 粟原粂吉

シマウ　シラガウ　魚鮫 本草集解 観文禽譜ノ説

形尋常ノ鵁鶄ノ如クシテ甚大サ凡ソ一倍ス総躰黒色ニシテ碧光アリ嘴ハ黒色ニ微青ヲ帯フ頭ヨリ頸ニ至リ白色ノ細毛雑リ生スルヿ頷白ノ頭ニ似タリ故ニ此一名アリ眼ノ後部ヨリ嘴ノ下ニ至ルノ間白ク又腿ノ外部ニ一所ノ白毛アリ其大サ一寸餘足ハ真黒色四指ニシテ内部第一ノ指最長シ其第二指ノ爪ハ外ニ刻アリテ櫛歯ノ如シ蹼アリテ之ヲ開ク時ハ恰モ蝙蝠ノ翼ニ似タリ

今茲ニ図スルモノハ房州ヨリ来ル者ナリ

明治五年壬申二月九日

鴎卵（同様ニ）

鴎ハ漁業上卵効アルモ漁獲物ニ対シ直接ノ害物タル也
之ガ駆除ヲ企ツルコトナキハ蓋シ甚ダ恩ヲ念フルノコトナル
ニ因ルカ（空気臭気アリテ食シ難ケレバ）去ル十年陸奥
ノ沖 新潟県下ヨリ其卵ノ出ルヲ見テ向後其卵採用ノ道
ヲ開クカ為メ 褒賞ヲ与ヘタルコトアリシ 然ルニ其後如何ナリシ
カ知ラス 一昨年 五月右是ニ至リシ比多ノ鴎卵ヲ採リテ売
ルアリ 江島ヨリ採集シタルヲ 我国季ニテ摂シ 得テ以テ生
テハ 採集ノ所ヲ知ラストスルナリ
高島千畝氏ノ新潟県下 廻察スルニ当リ 岩船地方ニテ鉄鳥ノ害

多十七 其海ニ一島アリ 栗生島（アヘウドリ）ニ多ノ鴎アリ 校邸ヨリ 駿十七

島ノ歌ハ其数ヲ十人捷フモ 四ア島ニ至リ島鴎尤モ多ク

読ミ無キヲ得ソ 新潟人ヨリ一日金三円及ヲ卵ヲ取ラ是人ヿトナ

十八ケ所ニ十八円ヲ収メ学校ノ資金トナスヿト是 卵ハ海保

二枚 ヲ

回民 寄付

アリ 化

明治十三年五月十七日新潟県船舶沿岸ノ孤島
栗島ニ渡海 説島山ハ鴎ノ巣ヲ設卵ヲ乳化ス
スル年数万十ケ其一所ニ至リ 西三名同様ト共ニ
一時間程ノ間卵三百余ヲ得タリ 一ヲ他日参考
ニモト晩羽[illegible]ニ送ル[illegible]モロキ[illegible]

拝呈
昨日北原氏ヘ参リ信天
翁ノ卵ヿ箱入リ候処ハ殺
個携帰候処途中ニハ
破レ申候 故ニ（此分ニテ）三個博物局ヘ
献納可致トノヿニ付 請取リ
申候 又信天翁ニ付テノ説ハ

此…信天
翁ノ卵ヿ承リ候處ハ数
個携帰候処過半ハ
破レ申候 故ニ（此ある所）三個博物局ヘ
献納可致トノヿニ付請取リ
申候 又信天翁ニ付テノ話シハ

多キモ且海ニ近キ一島粟生島（アハシマ）ニハ多ノ鷗アノ栖息スル夥キナ
鳥ノ卵ハ前数年来人捕ヿモ毎年島ニ至リ鳥卵ヲ取ルモノ多シ
護シ番者ヲ傭ヒ新潟人ヲシテ一日金五円ヲ支ヲ卵ヲ取ラシムヿトセリ
ニ十六個毎ニ十八円ヲ収メ学校ノ資金トナスヿトセリ 卵ハ新潟
ニ搬出ス 大ナルモノ雉卵ナリト 其節鳴クヲ殺スヲ好マ至急ニ至ヲ
同氏ヨリ之ヲ得タリ然ルニ同氏ハ近日秋田県ヘ赴任スルモノ書付
アリ左ニ貼ス

十二年十月廿二日　田井花

多キモ其海ニ一島アリ粟生島ト云多ノ鴎アリ松前エヘ形ナキモ

鷗ハ晝ハ洋中ニ居リ
餌ヲ求メ候テ其夜或
巣ヘ帰リ候節ハ島ノ岩
石ノ向ニ居リ候由其巣ハ
嶮ニ鴉ノ巣ノ若シ只枝ヲ寄メテ
立テ組ナリ卵ハ四時共ニアリト
氏多少アリ人若シ卵ヲ
取トセバ必ス卵ヲ護リ人ニ敵
スル意ヲ表ス是ニ因リテ北原
氏ハ利口鳥ト申由又卵
ノ價ハ壱個五六錢ノ由ニ
御座候所々ノ産ハ日本
常種ニ候哉相伺可申候　頓首

十二月四日

田中芳男様

東京大学総合図書館

田中殿
執事

鴨卵ノ貯蔵品

清国ニテハ人工孚卵法簡易ニ行ハルヽヲ以テ家鴨ノ蕃殖スルヿ
多ク孚化後ノ雛小ナルヲ以テ成大スル迄ハ魚ヲ食スヿ多ク又成
大ナルハ就勝蛎アリ十一月ヨリ二月ノ間ニ食スルモノハ
（田）又卵ノ醃蔵貯蓄アリ今左ニ録ス
一 鹹蛋ハ泥ト塩トヲ水ニ煮テ冷シ壺ニ入レ其中ニ蛋ヲ
入レ浸シテ其ノ乾スニ至ルモノニテ黒泥ト白泥トノ二
種アリ 之ヲ皆ニ丸ノ儘煮テ割リ切リ食ス 多クハ
粥ヲ食スル時ニ用フトミユ（河原田盛美ガ清国ノ報告）
山口辰五郎曰 此ズハ塩辛キモ ?塩ハ食フベカラズ 以テ

甚タ含ミアリ白身ハ白ク黄身ハ軟ナリト外部ニ
着スルモノハ塩氣ヲ多ク交ヘタルモノナリ
又曰蛋ノ内ニ已ニ化シタルモノヲ前ノ如ク製シタルモノ
アリ出シテ華大ナルト共ニ甚含ミ味ヒ亦佳ナリ

一 皮蛋又火蛋ト云 泥土ト灰ヲ塗リ包ミタルモノニシテ火
ニテ炙リ製スト 是ハ殻外ニ着クモノヲ洗ヒ落シ殻
ヲ去リ切リテ直ニ食スヘキモノナリト云フ（[illegible]）
山口氏謂テ曰 皮蛋ハ内部ノ色蒼黒色ニシテ黄色ノ中
而テ直ニ切リ食スヘシ

明治十年五月十八日 農商務省手 田芳記

紙儀板

清國産閩乾鴨名稱並ニ製法

一 腊鴨（廣東通称ラァガァプートト云フ）該製法ハ鴨ヲ腹部ヨリ開割
シ胸骨ヲ切去リ樽中ニ塩漬トナシ重石ヲ置キ三日或ヒハ四日間
ヲ過ギ晴天ノ日ニ樽ヨリ出シ塩氣ヲ去ル為メニ煮湯ニテ洗ヒ而シテ
乾製スルナリ

一 料理法ハ長サ壱寸ヨリ壱寸五分巾五分位ニ切リ皿ニ盛リ飯ノ粗燃ケシ
頃其釜中ニテ蒸シテ食用ニ供スルナリ 該品需用季節ハ舊暦十二
月頃ヨリ正月中重ニテ平常ニハ需用稀ナリ

一 製産地ハ廣東上海其他ニテモ製造ス然レモ上海其他ニテノ製

品ハ廣東産ニ比スレハ味ヒ兼ナリ亦廣東ノ製品中ニテモ南雄地方製品ヲ最上ト云フ

一價格ハ壱弗ニ付キ大約四翔ヨリ品ニヨリ五羽位ナリ

右ハ鴨ノ用乾淀　小島彝義ノ書ヲ写之

本書ハ河瀬氏ヨリ出ス

明治十年五月九日　田中芳男

紙儀板

小笠原ニ至ル卵ノ説明

説明

一支那品名　皮蛋（ピータン）（日本家鴨ノ卵）

一産出地名　浙江省杭州府、江蘇省蘇州府、仝省松江府上海縣

一需用地名　各省一般

一價格　千個ニテ五両（横濱支那商舘ノ小賣相場一個貳銭）

一荷作法　簍ニ入ルト云フ

一皮蛋（ピータン）ハ家鴨ノ卵ヲ以テ製セシモノニシテ其製法ノ概略ヲ聞クニ水ニ石灰ト枕龔糖等ヲ和シタルモノニテ卵ヲ一箇毎ニ包ミ大ナル罈ニ入レ蓋ヲ覆ヒ空気ヲ閉チ之ヲ製スルト云フ毎年ノ製造高ハ大約七千萬箇ナリト云フ

明治廿一年一月十四日

會員　町田實則

一　紫菜　官話

一　茄　福州　長二寸　径一寸許

一　火蛋　泥土トモミヌカヲ入リ大ニテ焼ナ鶏卵ト云

一　鹹蛋　泥ハ塩ヲ加ヘ割リ直ニ食ス　洗ヒテ煮テ割リ食ス

一　辰業

一　鴨脛　鴨　アヒルノ下腹ニ在ルノ　各有ニ産スノソーフ為シ食ス

一　魚[illegible]膠　是ハ其部ニ繋附ナシカ　肚ハ胃氣胞ハ膠ナリ

一　葱

一　巴

〆九三

一 海驢 宰汝座 一

右之通之て即時而手放く
元ゟ囲有之 鴨子 福岐ハ 六月
二月三月比ニ而 是月りまし 正月
え廿増進ノ事ノトスル由

明治二年
五月十日 河西貞之

田甲芳男様

覚

壱目

八百口鴨 九拾九匁
二クリ鴨 四拾三匁
外ニ八百口鴨 一百拾ノ匁

明治
六年六月 内外
二三分ノ差アリ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
彫 二寸三分
一寸七分
彫 [illegible]
二寸一分
[illegible] 二寸三分五厘
一寸五分
明治ノ色版ナル
リ[illegible]
味佳ナリ七面鳥ノ[illegible]色版ニ[illegible]秋芳[illegible]

アーレスブリー 白鷺

之を倶楽部の同人たる[illegible]君ハ明治[illegible]人[illegible]学者
[illegible]氏ハ[illegible]ナリされども是迄学術上ニ[illegible]
もせず国友もなく[illegible]独りさまよひ悲しみ[illegible]嘗て妻[illegible]
出でて家を立て[illegible]清国へ[illegible]用[illegible]
せ[illegible]銭ニ[illegible]一[illegible]
[illegible]たる[illegible]遊びたり 多田氏ハ[illegible]
てる[illegible]地ニ住む水戸佳川ニ[illegible]
同人[illegible]家鴨ハ嘗て[illegible]国人から[illegible]氏
二[illegible]千[illegible]君[illegible]氏も[illegible]人[illegible]とせ

毎年ノ家鴨ハ八九十ヲなすにて
一ツナレハ一ケ年ニ六十ナレハ一ケ年ノ卵ヲ生ス
ソノ内
後十ヒヨコナレハ十六ヲ生ス大十ナレハ二十余
ヲ生ス卵ハ大概五十ヲ
ちかう
おほえ申候
七

二十年六月九日　植松さる様へ下

Aylesbury

しも多田氏に乞ひ得て養ひおきし大家鴨ハ白色なりし
て其飼作方を尋ねるに其答に曰く是ハ雄一羽ニ牝
三羽を以て一組となし其牝の産卵ハ八十五ヨリ八十五
羽の平均二月より十月迄に毎日一つ宛卵を産し今
日に至りても猶止まざるよし卵ハ大抵鶏卵の
大きさにて他村の人之を求めて鶏母に抱卵せしめ又自
ら孵化器の如きものにて抱かしむるも雛を得る事能はず
事甚し卵ハ八九十にて其の養は他に比し幾何もなし
ゆゑに云々す金額ハ甚少なく利益も多し
去る明治十六年の第十三回アールスブリーにて選抜したる

明治二十年十二月八日

田中芳男識

鵝ハ大底六七十個産ス多キハ多数ト云

Ayles-bury.

田中様

東京大学総合図書館

Ayles-bury.

鵝ハ大抵六七十個産ス 甚多数[illegible]

田中様

常々御用[illegible]へしは

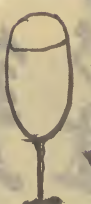
老身[illegible]大賢人

田中氏を入用[illegible]六敷

[illegible]可有之と存候

[illegible]用ニ成[illegible]

[illegible]「コップ」ニ用ゆる事



口ノ上部を切り木

[illegible]薄荷[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Aylesbury.

鵝ハ大底六七十個産 其他多数と云

田中様

此[illegible]
[illegible]之一助物を得たる事[illegible]
[illegible]相成[illegible]中ニ在[illegible]
二て御存知[illegible]
[illegible]安田[illegible]等之人
[illegible]申年[illegible]
[illegible]何分[illegible]之事其節
[illegible]一寸[illegible]太二居ても
コツプニテ化[illegible]道[illegible]
[illegible]を差支[illegible]
なる輸出物に一割[illegible]
ものすきなる事を思ひ出[illegible]
ある処ありその儀[illegible]
[illegible]
[illegible]
所謂 [illegible]たる事に奏せられ
[illegible]を得るの[illegible]

Ayles-bury.

鵝ハ大低六七十個産
吉田多教
とも

田中様

田中國様
侍史

多田奥

一月九日
吉田
多田奥

本郷区西片町
十番地
田中芳男様
親展
発明書ノ件
小梅村
一月九日
[illegible]

Ayles-bury.

鴨ハ大抵六七十個ヲ産ス [illegible]

田中様

[illegible]

東京大学総合図書館

鸊鷉

游水鳥ニシテ其大サ刀昆ヨリ小ク頭上ヨリ背部ハ灰褐色ニシテ首ノ側面目ヨリ後ノ部褐色腹部ハ灰白色ナリ眼ハ淺黄色嘴黒色ニシテ尖リ吻淡緑色ナリ尾ハ短小ニシテ僅ニ細毛アルノミ足ハ最モ後部ニアリテ黒色三指ニシテ趾指ナク形鳥ノ尾羽ニ似タリ以テ蹼ノ用ヲナス又一種此鳥ヨリ稍大ナルモノアリ㠯実否未詳

文部省

Aylesbury

ウトウ 又ヤスカタ 善知鳥

此鳥ノ事ハ 藻塩草 吾妻鏡ニ出テ 大和本草ニ在 和漢三才図会ニ載ス 故ニ今贅セス 南部平話 子ヲナラビガヌと云ヘ 蝦夷人ハ エボウリ トモウタ言 蝦夷地ハ 陸奥ノ海ニ限ラス 北海道ニモアリ 又北アメリカニ北部ノ海ニモ度々 此類ノ鳥ハ ウミスズメ コロク エトピリカ 等アリ 皆海水ニ游泳スルモノナリ 而モ其 ウトウハ 舊来有名ノ鳥ナレド 東南ノ地ニ絶テナキユヘ 人之ヲ知ラズ 近年ニ至リ 北海道ヨリ 剥製ニモ来ル有リ 去レド 多カラズ 故ニ剥製置キヲ得タルモノ 略放擲ツナラス 三尺四ノ

謹上未奉得貴意候得共秋
冷之候弥御清穆奉賀候
益御機嫌能被為遊
御座奉恐悦候
一 陳者今般右之件ニ付御承知
為御国産名品之義
本日差上候
新撰御 相伺候

ノ便ハ尺ヲ製シ方不十分ナレハ学術上ニ用ヒラレズ又
親ハ量ルナラサルナレハ原寸製ハ手間ノ入ルノミノ手際
アリケレハ却テ便ヲ失ス故ニ仮リ製シテ提出ノ事或ハ官
ニ但シ[redacted]嘱 脚ヲ以テ色ノ保ス[redacted]
サレ中ヌ服飾ノ色ナルハ青色ノ目ヲ取リ染ムル方ナリ
[illegible]ニトモニ武ハ色ニ[redacted]何ニシトモ[redacted]裁シテ差リセヨ又
[redacted]形状[redacted]ノ取リ染メ合ハスルモ宜シケレハ是ハナクテモ
部分ニ服色ヲ以テ登入用トス之
二十年七月十九日　田中井勇

右知

紙儀板

ノ價ハ堤之輿ニ付不相分事尋候所上ニ申上ヘ又
何れノ道ニても相分り候へ京
坂辺ニハ桜井氏旦十年ヶ
宮[illegible]候ニ付申候
ノ御大ニハ以田副[illegible]
田[illegible]
ニハ以田[illegible]井上
桜井氏[illegible]
ノ[illegible]
廿ノ[illegible]上去分
ノ[illegible]
[illegible]且
[illegible]十分ノ一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
へ[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
油ノカス[illegible]

緑　黄　青　紅　氵
觀音　右拓　儀板

ノ歌ハ此撰ハ、あの百首ノ九十九番ニ入テ二回ニ入ル文
ころよし撰 事中ニ入しかし
うけたし
○先ツ二十ノ国字をしるし国
此順ノ後ノ之ヲ書定ルト
じ古来ク人ノ書ニ秘訳
おこハ書ス定其他の歌
もあらし 上中世作者も
うし事 古来の御歌もて
紀の歌もて一首よ用歌ハ
きこし当時中にていよいよ
世人よ此申云以前の歌
哥し 此体後撰師中へ
未ききへ知ゟくて一此之後
う作し在
万作ら書し 書の歌上
此和ハ書 歌上ハあま何らて
きあら二此流の歌ハ作物館
ト力二にあき後く 歌ハ国書
和歌らら作りて書 書画類
御歌し 云ても書し
らて書ら和歌を書 和歌を書丸 所作の書
生山ノ川中 此書く らく 三万

[illegible] 行 [illegible] 拵 [illegible]
拵し [illegible] 千 [illegible]
[illegible] 一 [illegible] 上 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] 信 [illegible]
[illegible]
[illegible] 拵 [illegible]
[illegible] 上 [illegible]
[illegible]
[illegible] 大 [illegible]
一 [illegible]
[illegible] 中 [illegible]
[illegible]
[illegible] 上 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible] 文 [illegible] 大ナル [illegible]
ゴリ [illegible]
大ナル [illegible]
[illegible]
[illegible]
モート [illegible] 上 [illegible]
[illegible]
[illegible] 上 [illegible]

緑 黄 青 紅

文 際 儀扱

廿二日ノ朝白山権現ノ所ニ
此方ヘ移シ上ヲ八ツ半時下
ニテ下リテ帰ル

一 廿四日 [illegible]郎 西洋[illegible]ノ内
三ノ [illegible]ノ十六白山ノ西洋ト正
面ノ所ニ於テ[illegible]写ス
[illegible]ニ[illegible]一百[illegible]
[illegible]ニ西洋ノ[illegible]
三ノ [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ノ[illegible]

一 [illegible]ノ[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
[illegible] 二百[illegible]
入金[illegible]七八[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
右[illegible]上[illegible]

東京開港??家禽ノ羽毛??ノ一班

鶏羽　家鶏羽　家鴨羽　黒染羽

大阪製之　東京製之　家鵝頸羽

紅染鶏翅羽　東京??染??　頸

青染鵝翅羽　家鴨羽製花　白家鴨羽

黄染

緑染　丹頂鶴羽　七面鳥羽

田中公

下沢保躬

御??中様

青森県下
陸奥国
弘前
南川端町
十三番地

儀　扳

孔雀羽ノ三種　從尾　儲尾　長力尾

圖

家鴨雄尾羽（あひるおすのおくばね）

紅鷺背羽（べにさぎのせなか）　東京羽工社製かんざし

孔雀羽（くじやくのえば）　白鷺背羽（しらさぎのせなかのげ）　東京製かんざし

家鴨の毳毛（あひる　むくげ）　孔雀羽（くじやくのえば）　白鷺羽（しらさぎのえのげ）

[illegible]

墨色ノ深レバ色こと中老し

[illegible]

乳夜田ノ三種　陸尾　鋳尾　長力尾

にはとりのをばね
家鴨雄尾羽

羽線ヲ立テ翹ハ金能寒ニ加ヘ

ソレハ勇剛ナ者ガ好デ餘ス
奢侈人羽毛黒染ニスル
中ニモ粟別染ニ用テ中来ル
乃至従テ古ク駝鳥ノ羽ヲ染ル
モ　雉でも鷺ニテモ　純黒ニ充
澤色ヲ染レバ色ヲことト中ニモ
ニテ中　他ノ間ニ合スル也
ソレ故ニ人ニ気ニ入

アル程ニテ其煮タル汁ノ中ニ右ノ鳥肉（其汁ハ…後ニ文）
ヲ漬ケ置クコト一（但シ湯水等ヲ少モ入ヘカラズ）
右ノ如クニシテ壺鉢等ニ入レ能クフタ
ヲナシ置クナリ

郵便はかき

此表面ニハ宿所姓名を限り認むへし

田中先生
梧下

東京大学総合図書館

鳥[illegible]
何鳥[illegible]
能[illegible]
テ煮[illegible]
アル程ニテ其煮汁ノ中ニ右ノ鳥肉
ヲ漬ケ置クナリ（但ソノ湯水等ヲ少モ入レヌナリ）
右ノ如クニスレバ壺鉢等ヘ入レ能クフタ
ヲナシ置クナリ

郵便はかき

此表面ニハ宿所姓名ヲ限リ認ムヘシ

四谷区
愛住町[illegible]番地
片山直人様

小石川区
小日向[illegible]
[illegible]
石橋俊信

[illegible]

兼テ御申越之細工御篤ト御試可被成下候
以上
尚々[illegible]
草々頓首

是迄も大仏音雷之法[illegible]
[illegible]
[illegible]

鳥肉ヲ数十日間味ヲ變ヘズ貯ル方法
何鳥ニテモ適宜ニ切リ骨ハ粗肉ト共ニ
能ク久シキ充テ板ニテ生醤油ヘ
テ煮ル二其醤油ノ皐山ニ久シク
アル程ニテ（煮テハ引上ゲ其汁ナサヌ様ニ後ニ又）其煮ツ汁ノ中ニ右鳥肉
ヲ漬ケ置クナリ（但鍋ニテ湯水等ヲ少モ入ヌナリ）
右ノ如クニシテ壺鉢等ニ入レ能ク（?）フタ
ヲナシ置クナリ

根石ヲ用ルニハ入用程肉ヲ出シ
又其肉ヲ吸ニ出シ其汁ノ味
ヲ付ケナリヤノ醤汁醤油ヲ用サル事ヲ嫌ヘし
時ハ何時ニテモ今ノ稍色ヲ見如クニ
色ノ角ニ合且味モ及テ宜シ
ナリ

青木言　同事田無義

煠卵　二十二年四月十四日　千葉縣ニテ求メ来ルモノ四ツ中志色ニ
鶩卵白色ノ者　橙黄色　液油無臭
同　微緑色ノ者　同
雞卵白色ノ者　黄色　美味
同　微褐ノ者　同
是ノ鶩　白色　淡黄色　淡泊無臭
四ツ不像ニ角ヲ生ス但シ尊キナリ　三月ノ了
唐ニハ胆ナルトノ説アリ　調ベシ

徳島縣阿波國名東郡船場町
九拾壱番邸居住平民
貫名慈平

鶏卵索麺製造法左ニ如シ

小麦壱石　粉成量同断拾貫目
鶏卵三百粒　但壱粒ニ付
替金粉 壱目 百五拾目
ズ 〻 弐百五拾目

[illegible]

塩　五斤　昨年ヨリ増減アリ
水　三斗　右同断
溫飩ニ右種ヲ少シ加エ練上ルニ昨年ヨリ加減有レトモ概略
物薪
素麺出来高　壱貫目　据ハ壱貫目
代價金　素麺拾貫目ニ付　五圓ヨリ七圓マテ
右之通ニ候也

高山ニ棲ム鳥ノ話

十六年九月十六日山林局長某守ヵ氏長野岐阜富山石川福井等巡回シテ帰ル話ニ

一 木曽御岳　越中立山　加賀白山ノ内白山最低シト思ハル　雷鳥ノ如キハ何レノ山ニモ棲ム　白山ニ殊ニ見ル草木ノ未ダ棲ミ遠カラヌ所近一里余ノ下ヘ其種子ヲ啄ミ食フコト至テ好ミナリ　翔ル中ハ白羽ヲ見ル　方今雛ヲ擁ヘタリ　白山ノ人ハ肉ヲ食スト云フ

一 白山ニ　タケゲレ　又　ダケゲゲレト称スル雷鳥ニ似タル鳥アリ　鴨ノ如キ形色ナリ　雷鳥トハ別ナリ

一 白山ニ　ハクチョウト云フ鳥アリ　少シ白色ナリ　是亦雷鳥ニ似タル鳥ナリ

東京大学総合図書館

一昨年ニ タケツバメ トテ云フ害虫(?)ノ話シヲ聞ク イハツバメ ナルベシ

因曰 白山ノ麓 白根村ノ内 牛久村ハ 本杉ト山葦(?)ヲ養ヒ 蚕ヲ以テ 富ム 葉ハ 山崖ニ生シ 痩セテ 堅シ生ス

土人 葉ヲ摘ミ 枝ヲ切ラズ 是 故ニ 能ク 成長セヌ故ナリト

此村 杉ヲ養フ 幹ノ一方ニノミ 枝ヲ残シ 他ノ三方ノ枝ハ切去リ 此ノ如クスレバ 三方板ヲ取ルベク 若シ皆下枝ヲ去レバ 成長アルカ 去ラザレバ 節痕多クナルト 積年ノ経験ヨリセテ 方今 数囲ノ大樹モ 皆 此法ヲ用ヒト

故ニ 板ハ 皆柾ニシテ 美ナリ 此法ハ 共進会ニ出テサン 好法ナリト云フ

十三年九月廿七 田芳記

水鳥ノ名

Hagdon (Puffinus major & P. fuliginosus) fulmars, gull, petrels or mother Carey-chickens

右水鳥ハ 釣魚ノ餌トスルニ 宜キモノナリトテ 聞得ヨリ 手ヲ出サン 為ニテ 返ス 十六年[illegible] 田芳記

Puffin エトピリカ

fulmar (Procelaria glacialis、又沢ノ名アリ fulmarus glacialis 類ニ入ル)

gull カモメ

米須亭ニテ
シテ集繋
一八八ヘ

負鳥ノ一番児強壮ナル事

カナリヤ　一度ニ三ツ又四ツ産卵ス　其方一ニ産ヒタル者ハ同様ニ育ヒテ他ヨリ成長速ニシテ強健ナリ其他ハ次第ニ弱シ　又一番児ハ二番三番ニ比シテ強健ナリ　故ニ一番ハ直ニ巣立テ氏二番以下ハ然ラズ　雀ノ児ヲ捷レ行クハ多クハ二番以下ノ事ニシテ一番児ナ自ラ餌食スルハ勿論身体強健ナルハ親ノ撫育ヲ受ルヿ少シ

鯉ノ一番児ヲ産スルハ至テ静ナレ氏二番ヲ産スルハ甚タ騒カシキモノナリ　然レ氏児甚タ弱クシテ其一番児ノ健ナルニ及バズ　故ニ經済ニ着目セバ必ズ其一番児ヲ以テスベシ　又卵ヲ生スニ

Petrel

ウミツバメ

紙職板

他魚族ヲ追ヒ競テ食スルヲ以テ害甚シトス之レカ防禦

ノ備ヘ是ナリ

明治十四年七月十三日　前田孝氏ノ話　田中芳男記

ヤルヤ

亜米利加ノ書ハ二千年三月十九日返ス

實用家禽書　五冊　但シ四冊ハ附録ナリ

米國　ウイリアム、エム、レウイス　著

日本　農學士　高橋昌　譯

飼養法　疾類　雞ノ性質　七面鳥　鵞

鶩　家禽ノ病　舎　罨　孵卵器　卵子

孵卵　養雛　羽翼　禽敵　運搬　貿易

冬間保護　南米養禽場

解説ハ　英國最良点ノ表準（テゼット、メイア氏家禽書抄譯）

鶏類各種ノ体格ノ表ヲ表ノ如クニテ挙ケ印

雞　七面鳥　鵞　鴨　ノ四種

紙儀板

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館